



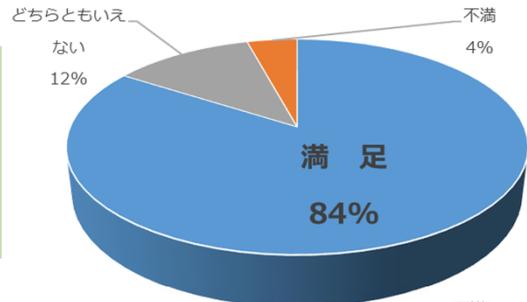
約8割の学生から「授業に満足」 前期セメスタ授業評価アンケート中間集計より

本学ではすべての授業で授業評価アンケートを実施しており、4月からの遠隔授業と6～7月からの対面授業を併用している本年度前期セメスタでも同様の調査を実施しております。IR推進室(室長・小西敏郎副学長)において9月中旬時点での中間集計を行ったところ、講義・演習科目および実験・実習科目とも約8割の学生から「満足(「やや満足」を含む)」との回答をいただきました。また「この授業は遠隔環境でも学びやすかったかと思うか」を質問したところ講義・演習科目では、概ね肯定的な評価をいただきました。

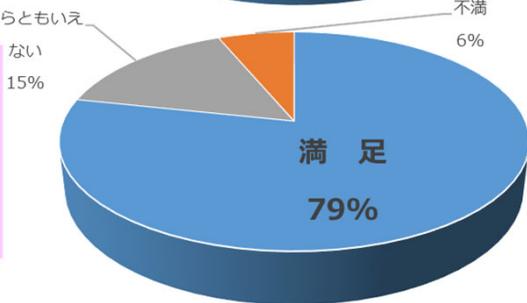
他方で実験・実習科目については、約2割の学生が学びにくさを感じている点も、本学としては重視しています。後期セメスタにおいては、対面授業レベルを「レベル2」から開始いたしますが、感染拡大の状況の評価しながら「レベル1」への引き下げも検討しております。どの学部・学科においても実験や実習はきわめて重要であり、対面による学修が有効な場面も留意し、少人数グループによる実験・実習を盛り込むなどにより、より満足度の高い授業運営に努めてまいります。

前期の授業は総合的に満足できたと思うか

講義・演習

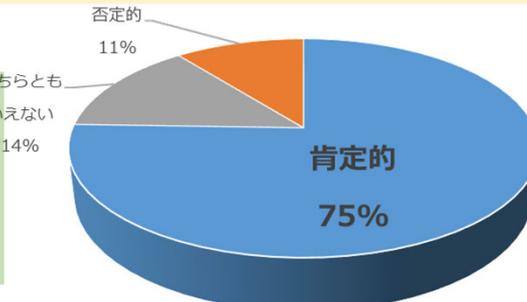


実験・実習

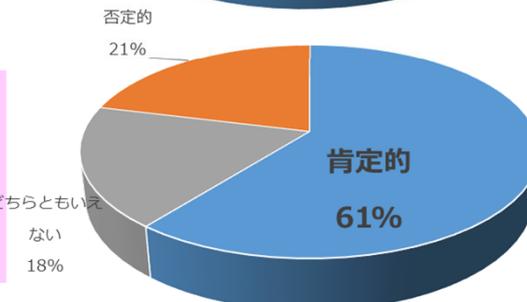


前期の授業は遠隔環境でも学びやすかったかと思うか

講義・演習



実験・実習



(学修管理システム“Web Class”に登録されている授業評価アンケート結果を用いて集計。有効回答数 13,084件。学部・学科・学年・科目によって、一部集計に含まれていないものがあります。)

オンラインによる3学科合同授業 「協働実践演習」の取り組み 医療保健学部

「科目の概要を教えてください。」
協働実践演習は、医療保健学部の看護学科、医療栄養学科、医療情報学科の4年生が、糖尿病等の生活習慣病や健康障害を題材に、問題解決や援助計画について意見交換し、各専門職の役割を認識するとともに、今まで学んだ専門科目の内容を総合的かつ深く理解することをねらいとする科目です。
「今まではどのような授業形態で、今年度どのように変わったのか教えてください。」
従来は250名近い学生を5つのクラスに分け、各クラスを更に5分割して行いました。つまり10人程度の班を25個つくり、3学科の学生が混在して議論して行きました。

「演習を行ってみたい、学生からはどのような反応だったか教えてください。」
これからの社会を意識し、事例設定もウィズコロナを前提としたものになりました。具体的にはテレワークだからこそころ起る健康上の課題やその支援を、議論のテーマに盛り込んでいます。
一日に最大4コマのリアルタイム型遠隔授業ですから、学生にもそれなりの負荷になったようです。しかし、専門が異なる学生と議論し続けることで、自分たちの考えだけでは十分な健康支援はできないことを学んだなどの自己評価も多く、少なくとも例年と同様の学修成果を挙げることはできたと考えています。

